

予測不能な事態に対峙できる人材を育成する

日本病院薬剤師会理事
千葉大学医学部附属病院薬剤部長
石井伊都子 Itsuko ISHII



豪雨や竜巻はある程度予測可能となりましたが、地震は未だに不意打ちで起こり、台風はこれまでに経験したことのないレベルに巨大化し甚大な被害を及ぼしています。ましてやCOVID-19やサル痘等未知の感染症が世界を席卷するなど、私は微塵も予測していませんでした。温暖化対策もSDGsもワクチンも全部後付けの対処療法です。やはり、人は経験がない限り予測して行動することは難しいのでしょうか。

そこで、教育は何のためにあるのか、改めて考えてみます。医療職の教育内容は目の前の患者を救うための既知の知識や技能を伝えるのが主です。さらに大学教育では卒業研究を行い、調査能力や課題解決能力を醸成します。COVID-19に対しても短期間でワクチンや抗ウイルス薬が開発され、医療現場の即戦力になっています。これらの医薬品使用の際に、ガイドラインが出され、薬物動態的な観点から使用制限が示されました。これは偏に薬剤師による薬への的確な理解がなされているからこそできたことです。元をたどれば薬学教育により身につけた知識・技能・態度が薬剤師を支えています。

2022年度は薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下、コア・カリ）の改訂が実施されています。2023年度が周知期間、2024年度から施行です。1度目の改訂である2013年12月から2度目の改訂です。この議論の途中で「概念化を目指した学習目標」という言葉が出てきました。言及された方は、学生はただただ多くの事実を覚えるだけなので、敢えて概念化することを学習目標としたいという説明をしていらっしゃいました。私は日常から「思考力の欠如」という話をしていますので、薬系大学の教員も同じ思いをしているのかなと正直思いました。しかし、私は「学びの概念化」とは、自分の頭のなかで自分の学習したことと体験など具体的な出来事とを結びつけオリジナルを構築していくことと思っています。つまり、学びの概念化とはプロセスであり、これを薬学教育のコア・カリの学習目標とは少々が違うなあと。これをお読みの皆様はいかが思われるでしょうか。前述したように、私たちは、既知のことだけでなく未知の病気にも挑戦していかなくてはなりません。患者の病気が治った、容態が改善されたなど、できる限り良いアウトカムが求められるのが医療です。従って、プロセスを目標にするのは、なんとなく腑に落ちません。また、「卒前・卒後のシームレスな教育」ということも話題となっています。当たり前と言われれば当たり前のことなのですが、皆様にご納得いただけるような表現でコア・カリに入れていこうと思います。

今回のコア・カリ改訂には「医療現場で活躍できる薬剤師」を強く意識して内容の吟味を続けています。まさしく自転車操業さながらの会議を回しながら、より良いものをご提示できるよう議論を進めています。一番の理想は表題に書いているように、「予測不能な事態に対峙できる人材を育成する」コア・カリとなることです。冷たい風が吹く頃には、パブリックコメントを求める予定にもなっております。是非、ご協力いただけますようお願い致します。